

うみあるき 2.0 の開発

松浦正浩 公共政策大学院

海に関する政策形成では、ステークホルダー間の合意形成の前提として、一般国民（public）の関心、問題意識を整理する必要がある。これまでの海に関する市民参加では、市民運動や NPO など特に関心が強い一部の国民の意見が強く影響を与えていたのではないだろうか。

本プロジェクトでは幅広い国民から海についての問題意識を把握し、熟議を促進するための ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した「うみあるき ICT プラットフォーム」を 2008 年度より開発してきた（プロジェクトのウェブサイトは <http://umiaruki.jp/>）。2009 年度は、Google Map/Earth と Twitter を活用し、不特定多数の国民が、いつでも好きなときに好きな場所から、海についての意見や情報を投稿できる ICT システム（うみあるき 2.0）の開発に取り組んだ。

うみあるき 2.0 は、特定のハッシュタグとジオタグを付加して Twitter へ投稿されたツイートを定期的に自動収集し、データの共有と時空間的な閲覧を可能に

するシステムである。ユーザは携帯電話、スマートフォンまたは PC からジオタグと特定のハッシュタグを付加した後、クライアントソフトを利用してサーバに送信する。また、twitpic などのサービスを利用して写真を添付することもできる。サーバ上では kml（Keyhole Markup Language）ファイルの書き出しを行う。これにより、ユーザはスマートフォンを用いて、各々のツイート内容を、スマートフォン表示用にカスタマイズしたデジタル地図「Google Maps」あるいはデジタル地球儀「Google Earth」上に簡単にマッピングし、WWW 上で共有することができる。

なお、2011 年 3 月 11 日の震災発生後、復興支援に向けた情報共有基盤としての貢献を目的に、首都大学東京渡邊英徳准教授と共同で、地震に関連するツイッターでのツイート（ハッシュタグ #jishin が付加されているもの）を自動収集し、地図上に掲載、公開している（<http://jishin.mapping.jp/>）。

